水道事業連載　第4回

# 水道の将来を考える

市民の皆さんに、おいしい水をいつでも安心して飲んでいただくため、水道課では25カ所の水道施設を管理しています。

今回は、市内の水道施設の維持管理について、水道課・関野重男主任技士に話を聞きました。

## 市内の水道施設

**――水道施設にはどのようなものがありますか。**

伊豆島田浄水場、佐野見晴台取水場、山中新田取水場は、水を地下からくみ上げ、塩素を注入するなど、安全に飲める処理をします。

北沢配水場や中区配水場などの施設は、安定して供給するため、取水場や浄水場から送られてくる水をいったん貯水池に貯留しています。貯留している水量は、北沢配水場は8千400トン、中区配水場は6千トンにのぼります。このような施設は、規模はさまざまですが、市内に21カ所あります。

**――それらの施設には、どのような設備がありますか。**

浄水場や配水場などの施設には、ポンプや滅菌処理、電気制御、測定装置などの多くの設備があります。

浄水場には水道課の職員や委託業者が常駐し、浄水場や各配水場での稼働状況を、昼夜を問わず、中央監視装置により、正常に作動しているか、監視や点検をしています。

**――職員のいない施設もあるのですか。**

23カ所の無人の施設は計器で監視するほか、安全確認や設備の稼働状況を毎日、専門業者や水道課の職員が巡回して点検を行っています。

▲計測設備の点検中

## 施設の老朽化によって起こりうること

**――水道施設や水道管の多くが高度成長期の人口増加に対応するために建設されたと10月1日号で伺いましたが。**

はい。今後、老朽化が進み、大規模な整備が必要になっていきます。設備や水道管の更新には莫大な費用がかかり、すべて水道料金で賄わなければなりません。「三島市水道ビジョン（改訂版）」による計画的な更新と適切な維持・管理がますます重要となります。

**――老朽化すると、どのようなことが起こりますか。**

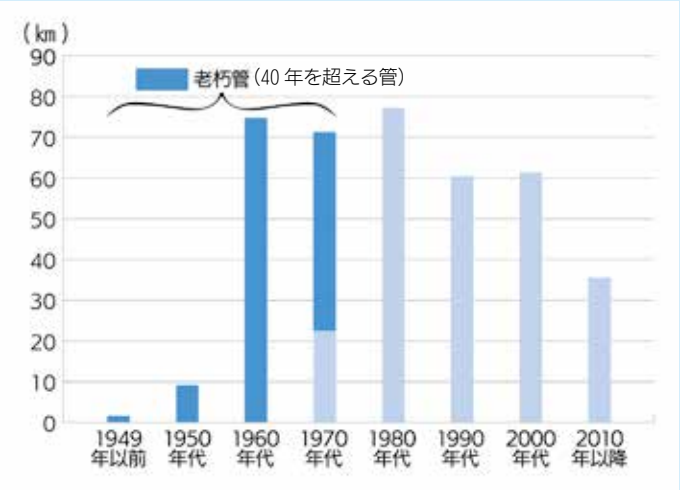
管が老朽化すると、破損し漏水が発生しやすくなります。公道上で漏水が起きた場合には、休日や夜間を問わず、24時間いつでも通報を受け付け、職員や専門業者が現場を確認し、迅速に修繕するようにしています。

▲水道課・関野重男主任技士

## 老朽化した水道管の整備

老朽化による漏水が発生すると、断水や道路陥没などの事故が起こる可能性が高くなります。それを未然に防ぐため、市内を4地区に分け、毎年、50～60㎞の水道管の漏水調査を実施しています。

昨年、漏水調査や通報などによって見つかった公道上の漏水は、149カ所あり、修繕を実施しました。




▲現在使用している管路の整備年、整備延長

次回は、水質や水質検査について、広報みしま12月1日号に掲載します。

**問合せ**　水道課（☎983・2657）

# 歴史の小箱

No.342

## 山中城跡の出土資料
## ―日常の品々―

**郷土資料館では現在、富士・沼津・三島3市博物館共同企画展の第一弾として、「駿東・北伊豆の戦国時代―北条五代と山中城―」を開催中です。今回は企画展展示資料の中から、山中城での人々の暮らしぶりがうかがえる出土資料を紹介します。**

箱根西麓の山中新田に位置する国指定史跡山中城跡は、戦国大名北条氏が防衛のために築いた山城の跡です。昭和四十八年（一九七三）から発掘調査が行われ、多数の遺物が出土しました。遺物は武具や武器だけでなく、城に出入りする人々が日常使っていたと思われる品々も見つかっています。

写真①は貨幣です。各曲輪より三十四枚が見つかりました。中世の日本は国内で貨幣を製造しておらず、渡来銭（中国より輸入した貨幣）を使用していました。渡来銭の種類はさまざまで、質の悪い渡来銭や、民間で模造された私鋳銭が多数流通していました。

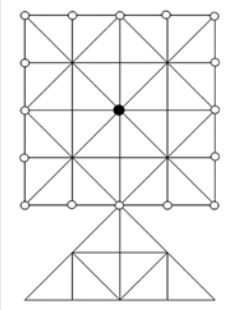
▲写真①山中城跡出土の貨幣

山中城跡からも、表面に中国の歴代王朝の年号が確認できる渡来銭や、質のあまりよくない私鋳銭が出土しました。当時の市場にいかに多くの種類の貨幣が流通していたかを知ることができます。

写真②は「十六武蔵」というゲームの盤面です。写真ではよくわかりませんが、平らな面を注意深く観察すると、正方形のマス目とその対角を結ぶ線とが刻まれていることが確認できます。

▲写真②山中城跡出土の線刻礫

「十六武蔵」は二人対戦のゲームで、盤の中央に親石一個を置き、周辺に子石十六個を並べ、石を動かして勝敗を競うものです。親と子は交互に一桁ずつ石を動かしていき、親は、親石を小石の間に入れることで、両側の小石をとることができます。小石の数が四つ以下になれば、親の勝ちです。子は、子石で親石を囲むか、親石を写真③の三角形部分（牛部屋）に追い詰めて動けなくすれば、勝ちとなります。中国に起源があるとされ、日本では平安時代から行われていたようです。山城防衛の合間に人々がゲームに興じていた様が想像されます。



▲写真③「十六武蔵」盤面と親石・小石の配置

このほかにも桶の側面に使われていた板や、扉の取っ手部分といった、山中城に出入りしていた人々の生活を垣間見られる資料を多数展示しています。

**この企画展は、平成二十九年一月二十二日㈰まで楽寿園内郷土資料館で開催します。**

**楽寿園では菊まつりも行われています。併せてご観賞ください。**

## 三島の村名⑨
## 中島―その一―（中郷地区）

中島は中郷地区の大場川と御殿川（梅名川）の合流地点近くにあり、二つの流れに挟まれた集落です。川の中の島のような場所ということからついた地名と言われています。このような立地から、河川改修以前は頻繁に洪水の被害に遭った土地でした。

中島の名が史料に登場するのは中世のことで、南北朝時代の応安三年（一三七〇）に書かれた寄進状（北条寺文書）にその名を見ることができます。戦国時代には北条氏の所領となります。山中城の戦いの後には、勝った豊臣秀吉から中島郷や近隣の村々へ、治安維持を約束するので避難先から村へ戻るよう伝える文書が出されました。江戸時代の当初は幕府領でしたが、後に相模の荻野山中藩領になりました。

▲昭和10年頃の旧下田街道（中島付近）

集落内には、三嶋大社の守護神で武門の崇敬があつかった左内神社が鎮座しています。

問郷土資料館（☎971－8228）